



一問一答方式による

一般質問

保育所・小学校・中学校
の防災教育



穴戸 幸次

防災教育どう変わる

問 震災後の防災教育はどのように変わったか。

市長 保育所では震災前からさまざまな状況を想定しながら、毎月避難訓練を実施しています。特に震災後は、避難の仕方、身の守り方について1、2歳児でも分かるように紙芝居を使って教える工夫をしています。

教育長 小学校・中学校では大きく3点変わり、1点目は、この経験を一生忘れないうえにも、風化させないためにも、教職員が力を合わせて岩沼版の防災ガイドブックをつくり、今後の教本にすることです。2点目は、それぞれの学校の実態に応じてマニュアル化を図り、学校の文化としていくことです。3点目は、津波に対する考え方の意識の改革を図らなければなら

ないことです。「過去の経験値だけで判断するな」「地震だけでなく津波に対する知識をしっかりと子どもたちに持たせよう」「自分の身は自分で守れ」をさらに力を入れて指導していくことです。



教育委員会発行
「学校の危機管理」

震災で破壊された
道路、側溝整備



森 繁男

問 津波で壊れた生活市道整備計画について伺う。

市長 応急復旧は、舗装が砕石で補修を行い通行の確保に努めています。本格復旧は、12月末で国の災害査定が終わると思いますので、査定等の手続が終わったものから早く工事に入りたいと思います。

問 地震による地盤変動でゆがみが出ている道路の整備計画について伺う。

建設部長 定期的なパトロールを行っており、応急復旧が必要な所は対応しています。危険箇所については看板を立てています。

マンホールの整備は

問 道路のマンホールの飛び出し(凹凸)の整備計画について伺う。

建設部長 マンホールの飛び出しは、道路の本格復旧に合わせて舗装復旧と一体的に整備したいと思っています。



飛び出たマンホール

問 狭隘箇所^{きょうがい}の壊れたり膨れ上がっている側溝の整備について伺う。

建設部長 側溝も道路の一部の構造物であり、道路の一

本格復旧と合わせて整備していく考えです。危険な所については申し出ていただくようお願いしており、申し出があれば即、応急復旧で対応しています。

集団移転



渡辺 真多

問 集団移転の地区の方々は、ある意味で中ぶらりん状態である。市内外への転出などで、玉浦のコミュニティは壊れつつあると感じている。国交省では適当な位置に土地区画整理事業があれば、そこも使えるとしているがどうなのか。

市長 理論上は十分可能です。被災された方々がどこに希望されるかで決められると思います。

造成期間どれくらい

問 恵み野を利用することは、集団移転を一番スピーディーにやれることだ。移転候補地の恵み野の西を造